

免疫チェックポイント阻害薬の治療効果を 判定できる血中マーカー

オプシーボのコンパニオン診断に有効

概要

PDL1 の腫瘍および腫瘍環境における発現強度は抗 PD1 抗体の治療効果と関連がある。腫瘍内への抗PD1 抗体の到達が、治療効果と関連すると考えられている。腫瘍内のCD163 Tumor associated macrophages(TAMs) は、抗 PD1 抗体により活性化し、sCD163 や特定のケモカインを放出することから、血清中のsCD163 および TAMs 関連ケモカインを、抗 PD1 抗体による治療効果を予測できるマーカーとする発明である。

応用例

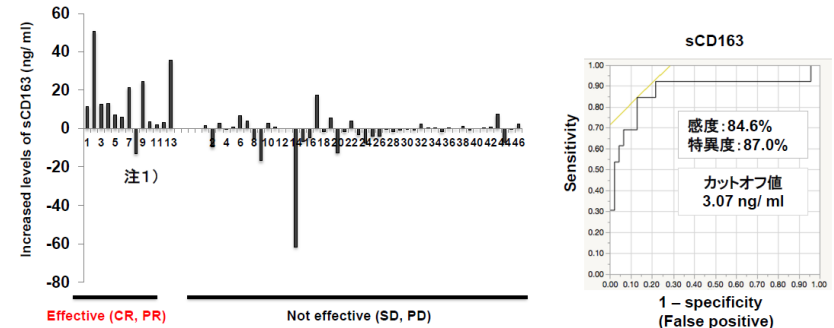
- 診断薬
- 検査キット

知的財産データ

知財関連番号 : WO2020/101039
 発明者 : 藤村卓
 整理番号 : T18-109

性能・特徴等

皮膚悪性黒色腫において、ニボルマブ投与前から投与後6週のsCD163の増加で治療効果が予測可能



奏効群ではニボルマブ投与12週後にsCD163が増加傾向であった。

関連文献

[1] Frontier of Medicine April 2019 | Volume 6 | Article 86

お問い合わせ

本資料をダウンロード



お問い合わせ

<https://www.t-technoarch.co.jp/contact.html>



発明案件を随時更新中

<https://www.t-technoarch.co.jp/anken.php>



LinkedIn ページをフォロー

<https://www.linkedin.com/company/tohoku-techno-arch>



Leading you to Successful Industrialization



株式会社

東北テクノアーチ

TOHOKU TECHNO ARCH